

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価計画

学校名	佐賀市立 鍋島中学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・「鍋中学び合い」の学習スタイルが生徒・教師ともに定着し、一定の効果が見られた。今後は、学び合いにおける「人との関わり」や1人1台端末の活用、アウトプットする活動の深化を図る必要がある。 ・自己指導力の開発のための「承認ボード」や「挨拶」「時間」の取り組みが徐々に広がり、生徒の意識や行動の変容につながってきた。 ・特別支援教育の充実と不登校の一環として、関係機関との連携や支援体制の強化を図り、生徒の社会性の醸成と学力保障に努める必要がある。

2 学校教育目標	<p>夢と感動にあふれ 豊かな心で 主体的に学ぶ生徒の育成</p> <p>～ enjoy challenge teamwork ～</p>
----------	------------------------------------------------------------------------------

3 本年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> ①「鍋中学び合い」を取り入れ、「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業実践を行う。生徒の学習意欲を喚起し、確かな学力を定着させる。 ②生徒が主体的に考え行動する教育活動を行うよう伴奏支援し、褒めて伸ばす人づくりを通して、自己肯定感を高める。 ③特別支援教育の視点を基盤とし、特性や多様なニーズに応じた支援・援助を行い、個性の伸長を図る。 ④支持的風土の学級・学年づくりを推進し、適切な人間関係を築き、家庭・地域と連携を図り不登校の解消に努める。
------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

4 重点取組内容・成果指標

(1) 共通評価項目				主な担当者
重点取組			具体的取組	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		
●学力の向上	○「鍋中学び合い」のねらいの共通理解を行い、レベル表を提示して深化を図る。 ○授業や家庭学習で学習用端末を活用した課題を設定する。	○全職員が「鍋中学び合い」を実践することで、授業の内容で分かることが増えたと実感する生徒80%以上 ○校内研の教職員アンケートで、学習用端末を活用した課題を設定したと答える教員の割合80%以上	・授業や家庭学習で、学習用端末を活用した学習活動や課題を取り入れる。 ・各授業で、まとめや振り返りを「書く」活動を取り入れ、定期テストに文章記述の問題を2、3問取り入れる。	・学力向上コーディネーター ・研究主任
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○生徒及び教職員の人権・同和教育の理解を深め、生徒向けの「人との関わり」に関するアンケートで肯定的な回答をした割合が80%以上	・平和集会や人権集会の実施、人権・同和教育に関する職員研修を行う。 ・学級・学年、生徒会、部活動、学校行事などあらゆる場面で人間関係を実践的に学習する場として指導する。	・生徒指導主事 ・道徳教育担当 ・人権・同和教育担当
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教職員90%以上	・毎月、生活アンケートを実施して、いじめの早期発見、早期対応に努める。 ・生徒会の生活委員によるいじめゼロ宣言を行い生徒の意識喚起を行う。	・生徒指導主事 ・教育相談担当 ・生徒会担当
	●生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した生徒90%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒80%以上	・様々な場面で生徒の出番と役割が保証される取組を通して、努力と成長を承認・称賛し、生徒のやりがいと意欲を喚起する。 ・キャリア教育の充実と学びや挑戦することへの価値づけを図る。	・各学年主任 ・進路指導主事
●健康・体づくり	●「安全に関する資質・能力の育成」	○生徒の交通事故0(ゼロ)を目指し、事故の未然防止と危険予知能力の向上及び啓発を行う。	・生徒会の交通委員会による交通マナー向上に対する取り組みを行う。 ・施設の安全点検を定期もしくは随時行い、不良箇所については営繕や注意喚起を行う。	・安全教育担当 ・生徒会担当
	●「健康を考えて行動できる能力の育成」	●「健康は何より大切だ」「保健で学習したことを、自分の生活に活かしている」と答えた児童生徒70%以上	・基本的な生活習慣の確立を図る。 ・自分のからだの異常に気づき、自分の状態を伝えることができる生徒を育てる。 ・けがや病気に対する自己管理能力を身に付けさせる。	・養護教諭 ・保健体育科
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・毎週水曜日を部活動休養日、定時退勤日とし、通常より早めの退勤を心掛ける。 ・ICTを活用した業務改善に取り組む。 ・長期休業中の会議・研修等の持ち方を工夫し、年次休暇を取りやすい状況をつくる。 ・時間単位の年休取得を奨励する。	・管理職
●特別支援教育の充実	○生徒支援のための校内体制づくりの充実	○特別支援教育委員会の定期的な開催と校内研修の場の設定	・保護者の理解・同意のもと、「個別的教育支援計画」と「個別の指導計画」を作成し、全職員で情報共有を行い、生徒一人一人の支援にあたる。 ・特別支援教育委員会を定期的に開催し、確実に情報共有の場を設定する。	・特別支援コーディネーター
(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				主な担当者
重点取組			具体的取組	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		
○不登校対策	○不登校生徒数を減らすための取組の推進 ○不登校生徒が増えない取組の推進	○昨年度の不登校生徒の割合(658名中37名…5.6%)から減少 ○「鍋島中学校に入学してよかった」と回答する生徒80%以上	・教育相談委員会等を利用し、生徒情報の収集、共有、対策を図り、全職員で対応に当たる。 ・専門機関等との密な連携や小中連携を図り、助言や面談を随時実施する。 ・いじめアンケート結果を利用し、問題の早期発見、早期対応に努める。	・教育相談担当 ・各学年教育相談担当

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育